広　報

わ　か　さ

No.111　2014.　7

若狭町制施行10周年記念

若狭・三方五湖ツーデーマーチ LET'S WALK!

5月17、18日。
五月晴れの下、「第23回若狭・三方五湖ツーデーマーチ」が開催され、
2日間で、県内外からのべ6097人が参加しました。
18日は若狭瓜割名水公園や熊川宿などを巡る「若狭鯖街道」、
19日はコースに舞鶴若狭自動車道を組み入れた
三方五湖の湖畔を巡る「五湖一周ふれあいの道」のルート。
それぞれ7・10・20・40kmの4コースを、
参加者は町並みや新緑を楽しみながら思い思いのペースで歩きました。
また大勢の住民が、大会の準備や当日の運営に関わりました。
（取材：わかさReco.）

Photo with:
Kazuhiro Tanda,Yukiko Shikata

1 2 3 4

5 6 7 8

1　完成間近の舞鶴若狭道を歩く
2　B&G 海洋センターでお弁当を受け取る
3　出発式で熊川小学校の全校生が元気にかけ声
4　風薫る湖畔にて
5　赤橋のチェックポイント
6　参加者の安全を守ります
7　海山のチェックポイント
8　メイン会場で作業する女性の会のみなさん

LET'S OMOTENASHI!

今回は、ツーデーマーチの裏方を探してみました。

朝５時から準備を始める役場職員。駐車場の整理や役場周辺の交通規制、参加者の受付、手荷物預かり、出発からチェックポイント・ゴールまでのスタンプ押し。チェックポイントでは給水と一緒にお弁当引き換えも。いつもは役場の奥の机で難しい顔して座ってる課長も、今年入ったばかりの職員も、みんな並んで働いてました。

こんな行事では必ず、明るくて元気な女性の会の笑顔が弾けます。女性の会はメイン会場だけでなく、農楽舎やB&G、海山給水所でも明るい声を響かせてました。「県外から来られた参加者の方に、いい所ですね、きれいな景色ですね、と感想を言ってもらえると嬉しい」とメンバーさん。「参加者の男性から折鶴をプレゼントしていただき、温かい気持ちになった」というエピソードも。一日目のゴール後は、給食センター職員がお椀に入れたシジミ汁を、はちきれんばかりの笑顔で参加者に提供。使い終わったお椀もせっせと洗います。

コースの通過点となった集落の給水所では、地域の方たちが工夫をこらして参加者をおもてなし。下吉田では前日から準備した３０kgの幸福米をおにぎりにして配りました。「毎年数が足りるか心配やけど、おいしいって声が聞こえるとうれしい」と集落の女性。瓜割名水公園では、葛饅頭とうりわりの水で出したお茶がふるまわれました。375個の葛饅頭は、当日の早朝から集落の女性がつくられたそう。常連の参加者は「今年も楽しみに来たよ」と、地域の人たちとにこやかに会話をする場面み見られました。

メイン会場にはたくさんのブースが並びました。干物・餅・コーヒー・ゆで卵・くずまんじゅう・地酒・梅干…など、特産品が勢ぞろいでした。体育館添いにズラリと並んだ、町内ではおなじみの軽トラ市も大人気でした。みなさん本当におつかれさまでした。

出発前は参加者全員で準備体操。三方中学校の吹奏楽部は、出発を見送る高らかな演奏を。今回は、全国のツーデーマーチの支援をしている朝日新聞のヘリコプターから、町制10周年を祝って花束の投下も。伊丹空港発若狭町役場グラウンド！驚きの計らいでした。

MAINSITE

メイン会場では、２日間たくさんのブースが並びました。毎年恒例、蕎麦愛好会の皆さんをはじめ、スポーツ用品など町外からも。公民館の中に入ると、和室ではマッサージ師たちが所狭しとベッドを並べ、無料でマッサージ中。皆さん気持ちよさそうに横になってらっしゃいました。

SAFETY

大勢の方が参加するウォーキングには欠かせない交通安全指導員。この日は防犯隊員たちも総出で、警察官たちと交通整理。酷暑の一日に、立ちっぱなしで誘導棒を振るお兄さん。「慌てないで」とかける声も優しかったです。

厚生労働省
お知らせします。
2つの給付金。

2つの給付金についてお知らせです

平成 26 年 4 月からの消費税引き上げなどに対する緩和手当のひとつとして、以下の給付金が支給されます。
給付金対象の可能性がある方には、7 月中旬に申請書を送付しますので申請手続きをお願いします。
申請書が届かなくても、対象になる可能性のある方は下記をご確認頂き、お問い合わせください。

申請期間：平成 26 年 7 月 15 日～ 10 月 14 日

【臨時福祉給付金】

● 支給対象者
原則、平成 26 年１月１日若狭町に住民票があり
住民税（= 町民税）が非課税の方
※ただし、生活保護受給者や、住民税を課税されている人に税法上扶養されている人は除きます。

● 支給額：1 人当たり 1 万円（１回限り）
（基礎年金・児童扶養手当等受給者は 5 千円の加算）

住民税が課税されているかを確認するには・・
（例）・給与支給明細書の「住民税」の項目に課税額が記載されている・・と課税されています。
・介護保険料決定通知書に記載されている「保険料の段階」で第 2 段階から第６段階となっている・・と基本的に課税されていません。

【子育て世帯臨時特例給付金】

● 支給対象者
原則、平成 26 年１月１日若狭町に住民票があり、
平成 26 年１月分の児童手当・特例給付を受給し、
平成 25 年分の所得が児童手当所得制限限度額未満の方

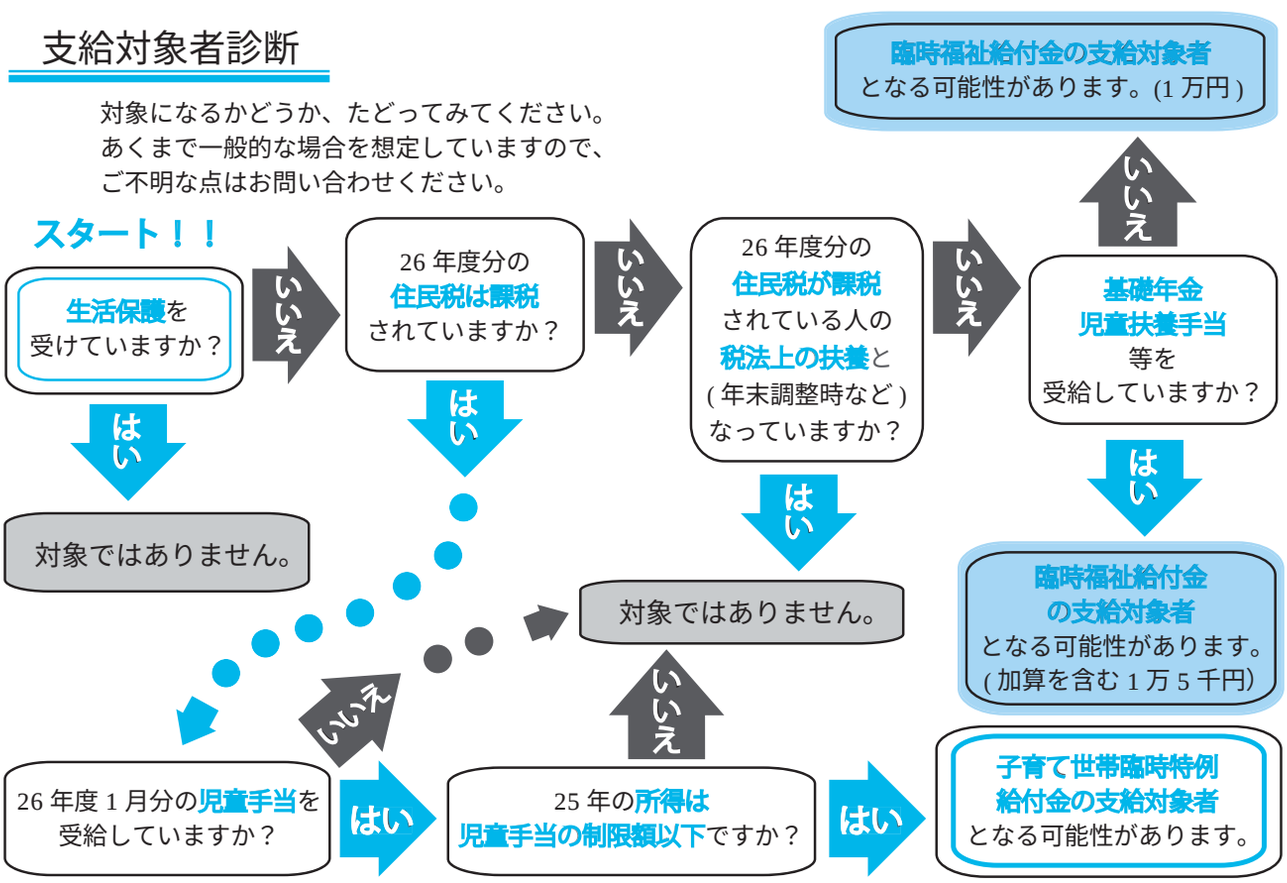
● 対象児童
支給対象者の平成２６年１月分の児童手当・特例給付の対象となる児童
※ただし、「臨時福祉給付金」の対象となる児童や生活保護の受給者となる児童などは除きます。

● 支給額：対象児童１人につき１万円（１回限り）

☆公務員の方は職場で発行された申請書で申請してください。(子育て世帯臨時特例給付金)
☆詳しくは、厚生労働省「2 つの給付金」ホームページ：http://www.2kyufu.jp/ をご覧ください。

支給対象者診断

対象になるかどうか、たどってみてください。
あくまで一般的な場合を想定していますので、
ご不明な点はお問い合わせください。



問い合わせ：福祉課　TEL 0770-62-2703
（平成 26 年 1 月 1 日に他市町村に住民票があった方は、その市町村役場にお問合せください。）

3歳でーす

このコーナーでは、3歳を迎える町内にお住まいのお子さまに登場していただいています。なお、ご応募いただいた方のみ掲載しています。
今回は平成23年7月生まれの3歳になるお子さまです。

◀竹内　夏海（なつみ）ちゃん

7月18日生まれ（脇袋）

親：一弘・富美子さん

パンダと「アナと雪の女王」が大好きなパワフルガール！

◀山本　徠生（らいき）くん

7月7日生まれ（朝霧）

親：由和・真澄さん

ヒーロー大好き。変身ポーズを決めたらシュワッチ！

次回は平成23年8月生まれのお子さまが対象です。写真と25字以内のコメント、生年月日、ご両親のお名前、連絡先を添えて総務課または上中サービス室へ提出してください（メールでの送付も可）。7月2日（水）必着です。

●問い合わせ　総務課　TEL 45-9109
電子メール
soumu@town.fukui-wakasa.lg.jp
（受信確認のため、必ずお電話ください）

行政評価局長表彰受賞！！

行政相談委員の田中正之さん（神谷）が、
長年の活動実績が認められ、
近畿管区行政評価局長表彰を受けられました。
田中さんは、平成18年4月から
行政相談委員を委嘱され、
月1回三宅公民館で相談を受け、
10月には上中地区の全公民館を回っての
相談を受ける他、自宅での相談も受けるなど、
地道な活動を行って来られました。
受賞に対しては控えめに
「さまざまな相談を受けますが、行政に連絡したり、どんな解決方法があるかを考えたり、その時々で出来る範囲の結果を出せるようにしています」
と話していらっしゃいました。

〈今月の表紙〉

	1	
2	3	
4	5	6
7	8	9

1　あじさいマラソン
2　オーストラリア帰国報告会
3　鳥羽小の田植え
4　あじさいマラソン
5　センチュリーライド能登野
6　鳥羽小田んぼ横のハス
7　上中中火おこし体験
8　気山カヤ田の田植え
9　野木小 花の苗にメッセージ添える

Photo:Yukiko Shikata

1本1本丁寧に

5月12日と16日、鳥羽小学校の5年生16人が田んぼの畦塗りと田植えを体験しました。

子どもたちは素足で田んぼに入り、泥の感触に歓声を上げながら、地元の老人会の方のお手本通り丁寧に畦塗りをしました。

田植えは、一列に並んだ児童たちが、回し枠で付けた線の上に2、3本ずつ手植えしました。豪快にどんどん植えていく子、一本一本丁寧に数えて植えていく子、それぞれに個性が出ます。

松宮拓海くんは、「初めてやったけど、枠転がしと田植えが一番楽しかった。苗の本数を数えるのが難しかった」と話してくれました。

地域に役立てて

5月26日、赤尾寿夫さん（小浜市）が、ＡＥＤ（自動体外式除細動器）１台を若狭消防署上中分署に寄付しました。

赤尾さんは小浜市府中のアカオタイヤ商会の社長で、旧上中町出身の男性と会社を創業しました。男性は志半ばで亡くなり、誰もが元気に生きる社会になってほしいという男性の思いと、上中地域への恩返しの気持ちを込めて、寄付をされました。

このＡＥＤは同分署の玄関ロビーに設置され、今後は救急出場中などの予備としての利用や、町内のイベントなどへの貸し出しも検討しているということです。

たくさん学んできました

5月9日、3月に開催されたオーストラリア派遣研修「LET'S豪 夢大陸」に参加した研修生16人と成年リーダー4人の帰国報告会がパレア若狭で行われました。

この研修は若狭町国際交流協会がオーストラリアでのホームステイや学校訪問などを行っているもので、今年は3月24日～31日に実施されました。

研修生たちは、現地での心に残った思い出や自分自身の成長などについて一人ひとり発表しました。研修生の三宅悠月さんは、「この体験は一生忘れない。自分に新しい考え方や知識を与えてくれた研修でした」と、引き締まった表情で発表しました。